

2023 年 1 月 1 日(日)

## 新年のご挨拶

新年、あけましておめでとうございます。

初空の藍と茜と満たしあふ  
山口 青邨



穏やか新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校に関わるすべての人にとって、本年がより良い年になることを心よりお祈りいたします。

元旦の日に初めて見上げる晴れ晴れしい空を俳句の世界では、「初空はつそら」あるいは「初御空はつみそら」と言い、新年の季語となっているそうです。空はどこで見ても同じかも知れませんが、コロナ禍に見舞われて以来、海外への渡航を自粛しており今年も初日の出を見るために電車と徒歩で学校まで出かけました。

6 時 30 分頃、校舎東側の尾根幹線道路まで上がると、そこには多くの方々が初日の出を見ようと集まっていました。遠くに羽田や房総半島の山影を眺めつつ、あかね色に染まる初空の下に光の塊が姿を愛でました。遠くに、羽田空港から飛び立った機体に朝陽が当たって輝く様が印象的でした。

同じ空の彼方、世界に目を転じれば、まさしく先の読めない緊張した情勢が続いています。武力は決して解決の手段とはならないこと、他人を妬むのではなく他を思いやることの大切さを、改めて肝に銘じるべきだと、強く感じた次第です。その上で、「平和と愛を希求する私たちが、今学ぶべきことは何でしょうか」、これを自分自身の課題として考えることから 2023 年を始めましょう。それが皆さんの将来を切り拓くことになるのです。

そこで、皆さんに一つの詩(部分)を贈りましょう。

内に隠れて見えないけれども  
現在(いま)こそ内に眠り底に潜んで  
自分にも他人にも発見(わか)らないけれども  
五尺の我のうちにこそ  
未見の我の偉大な姿が隠れているのだ  
ありがたや

自分の中には自分の知らない自分がある  
強くして能あり  
清くして正大なり  
現在(いま)の我とは比較にもならぬ  
未来相の我だ

私はもう私を見くびらない  
弱小の私  
無能の私  
あやまち多い私

しかし私は未見の我の故に  
私の全身全霊を愛惜する

〈以下、略〉

安積 得也(1953)『詩集 一人のために』第 45 版、善本社より

校長 石飛 一吉